

# どうして消防の広域化をするの？

## 大規模化・多様化する災害

### 消防を取り巻く環境の変化

大規模化・多様化する災害、住民ニーズの変化  
高齢社会、人口減少 等

#### 【 消防が取り組むべき課題 】

- ・初動対応、出動中の補完体制等、対応力の増強
- ・専門的な人材の更なる養成・確保
- ・車両・資機材の機能強化、高度な資機材の導入

的確な対応が必要

### 消防の広域化

消防の広域化によるスケールメリットを活用し、消防体制の充実強化と高度化を図る。

## 広域化は消防体制の基盤強化を図る最も有効な手段

災害の大規模化や住民ニーズの多様化など、消防を取り巻く環境は大きく変化しています。

消防は、この変化に的確に対応し住民の生命・財産を守る責務を果す必要があります。

しかし、人口減少社会にあって県西地域各市町の財政基盤の脆弱化が懸念される中、一層の消防力の強化はもとより、現在の消防力を維持していくことも難しくなるが見込まれます。

住民の皆さんが、安心安全に暮らせる災害に強い消防体制を実現する上で、消防の広域化は最も有効な手段です。

各市町の「消防団」は、広域化後も地域に密着した多様な活動を行うため、広域化の対象外となりました。消防と消防団は、引き続き連携を図っていきます。



# 消防の広域化で何が変わるの？

## 県西地域2市5町の消防を小田原市消防が担います

小田原市消防と足柄消防組合の2つの組織が統合され1つの消防組織となります。

これにより、足柄消防組合は解散し、消防署や消防車両等の名称等が変更となります。



(足柄消防組合)  
南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、及び開成町の1市5町が、共同で消防事務を行うために設置された一部事務組合。

## 119番通報の仕方は変わりません

現在、足柄上1市5町内で119番通報すると、足柄消防組合で受信していますが、広域化後は、小田原市の「指令センター」で受信することになります。

これにより、災害情報等の集中管理が可能となり、消防部隊及び救急部隊等の効率的で迅速な運用が行えます。



広域化時の消防署所、部隊や車両・資機材は、現状を下回ることはありません。

# 消防の広域化により期待できる効果は？

## より早く 現場到着時間の短縮

消防の広域化により、これまでの管轄区域にとらわれず、災害現場に最も近い消防署所から消防車や救急車が出動することから、災害現場への到着時間が短縮されます。

## より高度に 災害対応力の強化

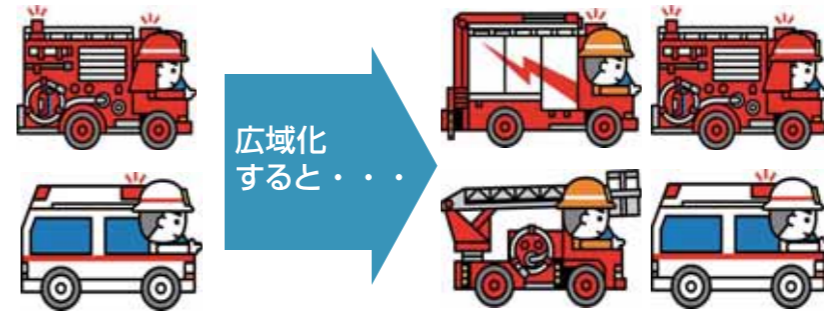
災害活動においては、初期の段階でいかに迅速に多くの消防力(人員・車両)を投入し活動できるかが、被害の軽減に非常に大きく影響します。消防の広域化により、出動部隊数が増加することから、災害対応力が大きく強化されます。



- 【凡例】
- …現状の出動体制
  - …広域化により、強化される出動体制
  - …到着時刻短縮地域
  - ① …到着順位
- ※( )内は、広域化前の署所名称

【図】大井町役場付近で建物火災が発生した場合の出動体制イメージ

【例】大井町役場付近で建物火災が発生した場合、これまで3署所からの出動でしたが、広域化により7署所から出動することができます。



将来的には、広くなった管轄区域にバランスよく消防署所の再配置を実施することにより、一層の現場到着時間の短縮が期待できます。



## より効率的に 行財政運営の効率化

現状では、各消防に、指令装置、無線設備及び特殊車両などを設置・保有していますが、広域化により消防を一つに統合することで重複投資を回避することが可能となります。

また、今後新たに整備する必要がある施設、資機材等については、広域化のスケールメリットにより投資負担額の縮減が可能となるほか、より高機能な資機材等の整備が図られます。

広域化を実施するために一定の投資的経費が必要となりますが、数年後には広域化による財政効果が上回る見込みです。

